

エジンバラ宣言の構成

会議の構成

背景

1. フライウェイ.
2. ワイズユース.
3. 国際協定の歴史.
4. 国際会議の歴史.
5. NGOの活躍の歴史.
6. ヨハネスブルグサミット.
7. パートナーシップの必要性.
8. 湿地の減少の危機.
9. 会議開催への支援.

本文

1. 総論：いっそうの努力と集中的な行動の必要性.
2. 国際的協力体制の必要性.
3. 種のアプローチと生態系のアプローチの両側面の必要性.
4. 協調的行動の必要性.
5. 緊急行動1：湿地の喪失と荒廃を食い止めること.
6. 緊急行動2：重要湿地の目録づくりと地元社会の参加による保全の促進.
7. 緊急行動3：水鳥の重要生息地ネットワークの拡張.
8. 緊急行動4：各国間の公的な協定の構築と拡張.
9. 緊急行動5：絶滅危惧種の回復計画.
10. 緊急行動6：重要生息地における人間活動の持続的管理.
11. 緊急行動7：アホウドリ・ミズナギドリ類保全協定の実施.
12. 緊急行動8：海洋環境の保全.
13. 緊急行動9：国際的な調査研究とモニタリングプログラムによる科学的勧告の確保.
14. 緊急行動10：2010年目標にむけた湿地に対する政策的目標の開発.
15. 緊急行動11：広報・教育・普及・啓発活動.
16. 緊急行動12：水鳥の疾病リスクの評価とモニタリングプログラムの構築.
17. 水鳥と湿地のワイズユースの持続可能な開発と貧困の根絶のための重要性.
18. より一層の国際協力と資金の確保の奨励.
19. 2010年目標への評価の指標としての水鳥の有効性と個体群推定の分析的開発.
20. 宣言の普及啓発と10年後の再会議.

会議結論

1. アメリカ地域フライウェイ
2. アフリカ-ユーラシア・フライウェイ
3. アフリカ内部フライウェイ
4. 中央アジア・フライウェイ
5. アジア-オーストラリア・フライウェイ
6. 外洋性水鳥
7. 北極圏
8. 気候変動
9. 非渡り性水鳥
10. 人口密度
11. 人間活動による特定シギ・チドリ類個体群の劇的な減少
12. 個体群サイズの小さな種
13. 新興・再興病原体
14. 水鳥モニタリングの統合的アプローチ
15. 標識調査研究

全体講演

1. 水鳥保全の歴史。ペルギー自然保護研究所キユイケン教授.
2. 北米フライウェイの保全管理の100年の経験。米国魚類野生生物局シュミット氏.
3. アフリカ-ユーラシア・フライウェイの現状と将来の課題。ラムサール条約事務局デビッドソン博士.
4. アジア・太平洋地域における渡り性水鳥と湿地環境の保全。「WWF香港」ヤン氏.
5. 渡り性水鳥個体群の制限要因。(オランダ)グロニンゲン大学ピエルスマ教授.
6. 気候変動の水鳥への影響。「国際湿地保全連合」フィンレイソン博士.
7. フライウェイの源、北極圏。米国魚類野生生物局ウォール博士.
8. 水鳥の持続可能な狩猟。「デンマーク狩猟者協会」カンストラップ氏.
9. フライウェイ規模での横断的調査研究。(カナダ)サイモン・フレイザー大学ネベル博士.

特別講演

南洋におけるアホウドリ・ミズナギドリ類の渡りパターンとその保全。ケープタウン大学クーパー教授。

分科会

1. 北米フライウェイの保全。企画：米国魚類野生生物局シュミット氏.
2. フライウェイのモニタリング1+2。企画：「国際湿地保全連合」ハゲメイヤ氏。「パードライフ・インターナショナル」ベヌン氏.
3. 渡り性水鳥の病気とその影響。企画：米国土地理院ロック氏.
4. 水鳥に関する教育活動。企画：豪州湿地センター フリエト氏.
5. アフリカ-ユーラシア・フライウェイの自然資源の持続可能な利用。企画：アフリカ-ユーラシア渡り性水鳥保全協定事務局レンテン氏.
6. 絶滅危惧種のフライウェイ保全管理。企画：「英国水禽湿地協会」ヒュース氏.
7. フライウェイ保全活動の資金確保。企画：(カナダ)ノバスコシア州自然資源省ミルトン氏.
8. 水鳥の減少。企画：英国自然保護協力委員会ストラウド氏.
9. 渡りの生態1+2。企画：(オランダ)グロニンゲン大学ピエルスマ氏。(米国)ポイントレイエ鳥類観測所ワノク氏.
10. 中央アジア・フライウェイの保全。企画：「国際湿地保全連合」ムンカル氏.
11. 拡大欧州連合鳥類指令によるフライウェイ保全1+2。企画：ジェンセン氏.
12. 水鳥保全・研究能力の向上。企画：「国際湿地保全連合」ドッドマン氏.
13. 水鳥アトラス。企画：「英国鳥類学トラスト」クラーク氏.
14. 気候変動の水鳥への影響。企画：「英国水禽湿地協会」オコネル氏.
15. 東アジア・太平洋フライウェイ。企画：「国際湿地保全連合」ムンカル氏.
16. 生態学的ネットワークの効果的な構築。企画：「パードライフ・インターナショナル」ベヌン氏。「国際湿地保全連合」ハゲメイヤ氏.
17. 水鳥の持続可能な狩猟1+2。企画：「デンマーク狩猟者協会」カンストラップ氏.
18. 水鳥と人間とのあつれきの解消1+2。企画：「ダックス・アンリミテッド」バット氏.
19. アフリカ内部の渡り。企画：「国際湿地保全連合」シラ氏・ドッドマン氏.
20. 統合的水鳥保全1+2。企画：スミソニアン研究所クシュラン氏.
21. フライウェイの源、北極圏。企画：アイスランド自然史研究所グドムンドソン.
22. 新熱帯区。企画：「国際湿地保全連合」ステインカンブ氏・南チリ大学シュラター氏.
23. 海洋環境。企画：英国南極研究所クロクサル氏.

サイドイベント

1. グリーンランドマガン関係者会合.
2. アジア水鳥センサス報告書発刊記念セレモニー。国際湿地保全連合.
3. 全北区シギチドリ類モニタリングプログラム会合.
4. 欧州鳥類標識プログラム会合.
5. 海鴨類専門家グループ会合.
6. サギ類専門家グループ会合.
7. シギチドリ類標識システム.
8. アフリカ-ユーラシア渡り性水鳥保全協定/地球環境ファシリティ・プロジェクト関係者会合.
9. 中央アジア・フライウェイ・ツル類重要生息地ネットワーク.
10. 世界水鳥委員会関係者会合.
11. 揚子江流域の水鳥.
12. ボン条約25周年祝賀会.
13. カモ類の捕獲標識技術.
14. 水鳥狩猟専門家グループ会合.
15. アフリカ鳥類標識プログラム.
16. シロハラチュウシャクシギ・ワーキンググループ会合.
17. アジア・オーストラリア・フライウェイ・WSSDイニシアティブ.
18. 国際湿地保全連合・メンバー会合.
19. エディンバラ宣言検討部会.
20. ヘラシギ保全計画づくり.
21. 米国アラスカ州ユーコンデルタ・シギチドリ類研究グループ会合.
22. アフリカ-ユーラシア渡り性水鳥保全協定の広報戦略関係者会合.
23. アフリカ-ユーラシア・フライウェイ標識データ分析関係者会合.
24. カリガネ専門家グループ会合.
25. カモ類専門家グループ会合.
26. 中央アジア・フライウェイ会合.
27. 水鳥データベース調整会合.
28. 東アジア・オーストラリア地域シギチドリ類ワーキンググループ会合.
29. 「英国鳥類学トラスト」と英国自然保護協力委員会の協力の覚え書き締結式.
30. 国際湿地保全連合/IUCN専門家グループ・コーディネーター会合.
31. 「シギチドリ類の行動生態学・ワッデ海の生態学的アトラス」発刊記念式.